

第 16 回 重要文化財 名古屋市東山植物園温室前館の保存及び活用に関する検討委員会の開催結果

東山植物園の温室（前館）は、昭和 12 年の開園当時から皆様に親しまれてきた施設です。かつては「東洋一の水晶宮」と謳われ、また、建築技術史上、重要な施設として、国の重要文化財の指定も受けていますが、現状は老朽化が進行しているとともに、耐震補強の必要性も生じています。

重要文化財である温室（前館）は、公共のために大切に保存するとともに、その文化的活用を努めることが求められます。そのため、東山動植物園再生プランの一環として、その保存と活用を努めるべく、有識者による検討委員会を立ち上げ、今回、第 16 回の会議を公開で開催しました。

【日時】平成 30 年 2 月 16 日（金曜日）午前 10 時 00 分から 12 時 00 分

【場所】東山動植物園 植物会館

【出席者】

(1) 検討委員会委員：6 名

瀬口哲夫氏(会長) 名古屋市立大学名誉教授

小野徹郎氏(副会長) 名古屋工業大学名誉教授

飯田喜四郎氏 名古屋大学名誉教授

是澤紀子氏 日本女子大学家政学部住居学科准教授

溝口正人氏 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授

本間和枝氏 公益財団法人宇治市公園公社顧問、元宇治市植物公園園長

(2) 国、市及び関係機関出席者：15 名

(3) 報道関係者：0 名

【傍聴人】 0 名

【会議内容】

○議題 1. 保存修理工事の進捗状況について

◆現地視察

○議題 2. 温室内の展示活用基本設計（案）について

○議題 1. 保存修理工事の進捗状況について

事務局より、保存修理工事の進捗に関して説明しました。その後、現地に移動し、現場確認を行いました。

◆現地視察

保存修理工事の進捗状況に関して、現地で確認をし、その後意見交換を行い、了承を得ました。

その時の主な意見は、次の通りです。

・東西の花卉室の耐震補強に関する質問を受け、構造計算書に基づいてチェックを行っていることを報告。補強部材の取付け位置の変更が構造計算にきちんと反映されているかについて、施行者として再確認しておくよう意見を受けました。

○議題2. 温室内の展示活用基本設計（案）について

事務局より、温室内の展示活用計画（案）について説明し了承を得ました。

その時の主な意見は次の通りです。

- ・説明パネルやモニュメントを鉄骨本体とは区別しつつ、調和のとれたデザインとなるよう検討してほしい。
- ・修復して取り外した鉄骨の現物は、展示以外でもできるだけ保管できるよう検討してほしい。
- ・水晶宮に相応しい景観を創出することが重要。施設管理と植物管理の両面から調和した文化財温室としてほしい。
- ・来園者が経験できる、体感できる、知ることができる設えが必要。
- ・建設当時の温室の役割と今の時代の温室の役割は変化していると思う。新しい植物園の役割を考えながら利活用してほしい。
- ・活用計画を検討していく中で、植物があまり多種多様になりすぎないように注意してほしい。
- ・東花卉室で使用する家具等のデザインの検討は慎重に行う必要がある。ヨーロッパの温室を作るのか、昭和12年当時の日本の温室を作るのか、しっかりと議論してほしい。